

氏名	大中 一彌 (おおなか かずや) 教授
こんな研究をしています	<p>学問分野：政治学、政治思想 地域：フランス語圏。</p> <p>キーワード：シティズンシップ、ヨーロッパ、社会統合、グローバル化、移民</p>
こんな成果を挙げています	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「黄色いベスト運動 — あるいは 21 世紀における多数派の民衆と政治」『対抗言論』法政大学出版局、2019 年、254-289 頁。</li> <li>・杉田孝夫・中村孝文編『市民社会』第八章 現代フランスの「スカーフ問題」における市民社会と国家 199-222 頁 おうふう 2016 年。</li> <li>・「移民社会の論じ方 — ジェラルール・ノワリエルにおける記憶と歴史 —」『思想』岩波書店 1096, 171-187 頁 2015 年。</li> <li>・『フランスという坩堝』 ジェラルール・ノワリエル 法政大学出版局 2015 年 (翻訳)</li> <li>・“Anti-Humanism as the Objectifying logic of Politics: A Pascalian Detour to Reread Althusser”『異文化』 16, 73-92 頁, 2015 年。</li> </ul>
ほかに、こんなジャンルに関心をもっています	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Twitter 熟議のためのメディアとしてはほぼ機能せず、むしろフェイク・ニュースを拡散させたり、イデオロギー対立を激化させたり、考えの足りない人間 (専門外について発言する研究者を含む) のおもいつきが大量の「いいね」をもらっていたりするため、良貨は悪貨に駆逐されるの感が否めないが、とにかく速いという点では、間違っただけで一番速い。学術論文や、大学図書館にある古い書物をゆっくりと読む必要性を思い起こさせてくれる面でも、反面教師的な意義がある。</li> </ul>
こんな授業を行なっています	<p>担当科目：多言語社会論 A・B</p> <p>基本姿勢：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①自分とは異なるものの考え方や文化に接する機会を提供することで、自分のなかにある文化的偏見や無知に気づく機会を提供する。</li> <li>②語学や思想史、外国事情などの専門知識・スキルの伝達も重視しています。</li> <li>③法政大学大学院国際文化研究科修士課程における私の研究指導を希望される方は、出願する以前の段階で、実用フランス語技能検定試験 (仏検) で「準 2 級」以上、または、ヨーロッパ共通言語参照枠で「A2」以上を取得してください。</li> </ul>
学会や社会でこんな活動をしています	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『「現代日本の思想」を再読する」 パリ日本文化会館客員教授招聘による講演 2015 年。</li> <li>・ La philosophie, médiation entre les "corps de civilisation" ? 高等師範学校での講演・討論会 (パリ日本文化会館客員教授招聘による) 2015 年。</li> </ul> <p>URL <a href="https://savoirs.ens.fr/recherche.php?rechercheTerme=Kazuya+Onaka">https://savoirs.ens.fr/recherche.php?rechercheTerme=Kazuya+Onaka</a></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法政大学出版局の理事長を現在つとめ、学術出版の困難さと意義を感じています。</li> </ul>
私が思う多文化的かつ、インターカルチュラルな人物	<p>サン=ヴィクトルのフォーゴ。「多文化的かつインターカルチュラル」という形容を、人の属性 (肌の色や性別) に還元するのではなく、物事を学び、自分の中にある先入見への囚われをなくしていくこととして解釈するという条件において。詳しくは E・バリバール『ヨーロッパ、アメリカ、戦争』(平凡社) 254-255 頁における大中の発言部分を参照してください。</p>